

## ご退職記念号に寄せて ― 東茂美先生を送る言葉 ―

田中英資

東茂美先生は、一九九〇年四月に大学開学と同時に、人文学部日本文化学科の助教授として着任されました。一九九七年度より教授に昇任されました。二〇〇一年度からは、日本文化学科を改組して生まれた現代文化学科の教授として教鞭を振るわれ、二〇二一年三月まで三十一年にわたって、教育・研究に貢献されました。

学務活動としては、二〇〇〇年度から二〇〇一年度まで人文学部教務部長、二〇〇二年度は大学・短期大学部教務部長を務められました。また、二〇〇三年度から二〇〇四年度、及び二〇一五年度は生涯学習センター長、さらに二〇一六年度から退職まで大学院人文科学研究科長と、学内の重要な役職を歴任されました。

東先生とお仕事をさせていただいたのは、私が着任した二〇一一年度からの約十年ほどです。先生にに対して、私が最初に抱いた印象は、「現代文化学科の名物教授」でした。「日本文学の発生」「中国文学」「日本の文学（古典）」などの国語教職に関わる科目群だけでなく、「日本文化論（思想）」「比較文化論（アジアとヨーロッパ）」と、多彩な科目を担当なさっているのを知って、先生の引き出しの多さに驚いたからです。

なかでも、東先生が担当されていた「日本文化論入門」は、学生たちに「トトロの授業」として親しまれていました。この講義は、『アニメ映画』となりのトトロ』を題材として、作品にあらわれる様々なモチーフの背景を古代

から現代に受け継がれる文化要素を結びつけて考えていくというものでした。また、一年次配当の選択必修科目で前期に開講されることもあり、ほとんどの学生が一年生で履修していました。ただし、シラバスにも、「トトロだからといって、授業の内容がやさしいわけではないから、要注意。」という注意書きもあり、「入門」とはいえかなり高度な内容を含んだものでした。それでも、入学したばかりの一年生には大きな刺激になっていたようで、この講義を履修した学生のなかから、毎年必ずといっていいほど先生のファンが生まれていました。東先生のゼミは、授業を通して先生のファンになった学生たちが集まっている印象がありました。ゼミが終わった後も、教室や先生の研究室の前で学生たちと話し込んでいる東先生のお姿をよく拝見していました。

部活動では、空手部の顧問をされていました。放課後、道着に着替えられた東先生が体育館に向かわれているお姿や、体育館で学生を指導されている様子をお見かけしていました。そんなわけで教育に限らず、さまざまな形で学生との関わりを大事にされているという印象を持っていました。

東先生に対して抱いたもう一つの印象は、「生き字引」です。既にご紹介したように、先生は大学の開学時から定年まで勤めあげられました。現代文化学科だけでなく、大学の歩みをずっとその目で見てこられました。学科会議などでは、そうしたご経験からご意見を話されることも多かったのです。特に、現代文化学科が発足直後に大きく定員を割り、学生集めにご苦労をされたことをよくお話されていました。

会議のなかでの議論が煮詰まった際には、先生のご意見が議論を方向づけることも多かったのです。特に、二〇二〇年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延という未曾有の状況のなかで様々な判断が求められ、議論が膠着するころとしばしばでした。そんなときに、先生のご意見で学科がまとまるという場面もありました。学科長として、先生方の意見をまとめる立場だった私は、本当に助けられました。

研究活動においては、万葉集を中心とした日本古代文学、特に大伴坂上郎女に関するご研究で博士号を取得され

ています。また、古代日本のみならず、東アジアから広くヨーロッパまで俯瞰する視点で比較文化研究を展開されてこられました。これまで、数多くの著書・論文を執筆されています。一部ではありますが、ご紹介いたします。

- 。『大伴坂上郎女』（笠間書院 一九九四年）
- 。『東アジア万葉新風景』（西日本新聞社 二〇〇〇年）
- 。『山上憶良の研究』（翰林書房 二〇〇六年）
- 。『古代の暦で楽しむ万葉集の春夏秋冬』（笠間書院 二〇一三年）
- 。『鯨鯢（くじら）と呼ばれた男…菅原道真』（海鳥社 二〇一九年）
- 。『元号「令和」と万葉集』（海鳥社 二〇二〇年）他

東先生のご研究は、学会だけでなく広く世間一般に評価されてきました。生涯学習センターの先生の講座は、多くの受講生を集めてきました。また、ご著書の『東アジア万葉新風景』の内容を参考に、テレビドラマ『三年B組金八先生』の授業場面が制作されるといったこともありました（二〇〇七年十一月）。新元号「令和」の出典について解説されたことも、記憶に新しいです。

東茂美先生、長い間福岡女学院大学のためにご尽力くださり、まことにありがとうございます。先生のご多幸と、さらなるご活躍をお祈り申し上げます。